

グリーンボンド・ インパクト・レポート

2021年度



IFC

**International
Finance Corporation**
WORLD BANK GROUP

Creating Markets, Creating Opportunities

IFCとは

世界銀行グループの一員であるIFCは、新興国の民間セクターに特化した世界最大規模の国際開発金融機関です。IFCは100ヶ国以上で活動し、IFCの資金、専門知識、そして影響力を駆使することで、途上国に市場と機会を創出しています。2021年度には、各国が新型コロナウイルス感染症の世界的流行（パンデミック）の影響に立ち向かう中、民間セクターの力を活用して極度の貧困を撲滅し、繁栄の共有を促進するべく、途上国の民間企業や金融機関に対して315億ドルという記録的な規模のコミットメントを行いました。詳細はwww.ifc.orgをご覧ください。

表紙：海から回収され、リサイクルされたプラスチックペレット



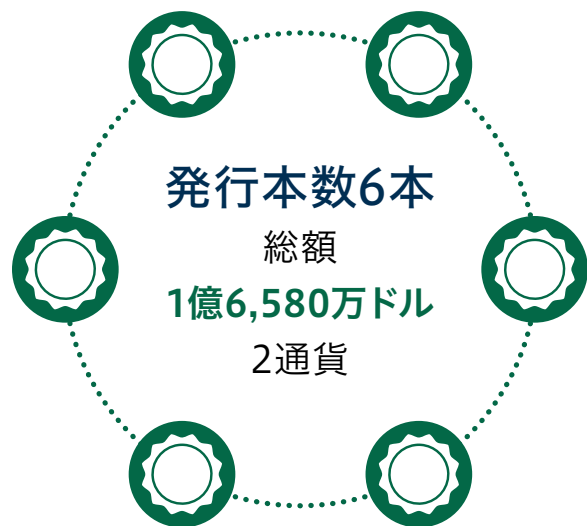


目次

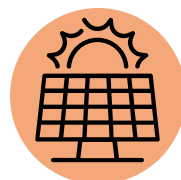
2021年度のハイライト	4
トレジャーラーからのごあいさつ	6
2021年度のIFC気候関連ビジネスの概要	8
新しいIFC気候関連ビジネス局長のご紹介	10
パリ協定にスポットライトを当てる：IFCにとっての意味	11
顧客支援の実例：青い波に乗る	13
顧客支援の実例：より環境に優しい未来を築く	14
顧客支援の実例：成功の甘い香り	17
2021年度のIFCグリーンボンド・プログラムの概要	18
インパクトを加速する：新興市場におけるグリーンボンド	21
IFCのグリーンファイナンス市場との関わり	23
IFCグリーンボンド適格プロジェクトのコミットメント	25
2021年度にコミットしたグリーンボンド適格プロジェクト	27
付属資料A：職員の声と意見	33
付属資料B：IFCグリーンボンド・プログラムのプロセス	36
付属資料C：IFCインパクト・レポートの方針	38
付属資料D：IFCグリーンボンド・コミットメントおよび 融資実行額の調整	40

2021年度のハイライト

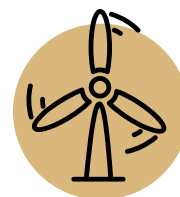
7セクターの15のプロジェクトにコミット



バイオマス



太陽光発電



風力発電



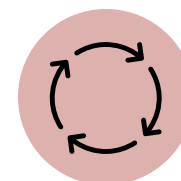
輸送



グリーンバンキング



グリーンビルディング



循環経済



2021年度に行った1,000ドルのIFCグリーンボンドへの投資により期待される効果¹

¹ 例示のみを目的としており、数値を保証するものではありません。



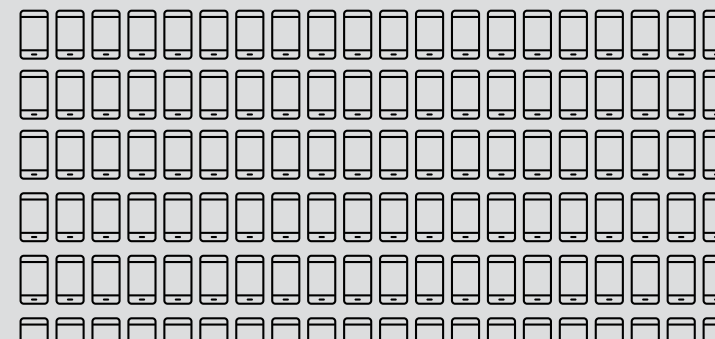
CO₂換算で年間**12.6トン**の温室効果ガス (GHG) を削減

乗用車3台を1年間運転した場合のGHGに相当



再生可能エネルギーにより**5.4 MWh**を発電

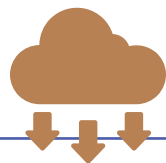
46万5,000台以上のスマートフォンの充電が可能



2021年度に発行したグリーン ボンドにより期待される効果

CO₂換算でGHGを
年間200万トン**削減**

石油480万バレルを消費した場合の
[CO₂排出量に相当](#)



再生可能エネルギーにより

タークス・カイコス
諸島の[年間電力使用量を賅える](#)

898,844MWhを**発電**

ハイライト

2010年度-2021年度
(累積ベース)

発行本数**178**本
総額 **105億ドル**
20通貨

235のプロジェクトに
対するコミット総額
94億ドル

2010年度-2021年度に発行 したグリーンボンドにより期 待される効果

CO₂換算でGHGを
年間2,390万トン**削減**

ガソリン26億ガロンを消費した場合の[CO₂排出量に
相当](#)

再生可能エネルギーにより

パプアニューギニアの[年間電力使用量を
賅える](#)

26,352,287MWhを**発電**



再生可能エネルギーによる発電能力を
273MW**拡大**



再生可能エネルギーによる発電能力を9,453MW**拡大**

年間エネルギー消費量を
115,161,121KWh**節減**

9,000万ポンド以上の石炭を燃焼した場合の[CO₂
排出量に相当](#)



年間エネルギー消費量を864,611,239KWh**節減**

111,299世帯以上の[年間電力使用量に相当](#)

598,685平方メートルの建物に**気候変動対策を導入**

26,000人の職員を収容し全長17.5マイル(28.2KM)の廊下を持つ世界最大の
オフィスビルである[米国防総省に相当](#)



トレジャラーからのごあいさつ



ジョン・ガンドルフォ
IFC副総裁兼トレジャラー

気候変動に関する政府間パネル (IPCC) が最近発表した報告書は、直ちに対策を講じない限り、気候変動は今後ますます壊滅的な影響を及ぼすようになるとの深刻な状況を浮き彫りにしています。そのうえ、気候変動の影響を最も受けやすいのは、世界で最も脆弱な人々、すなわち気候変動の原因に対する責任が最も少ない人々です。気候危機を放置すれば、今後10年間で1億3,200万人が貧困に陥るおそれがあります。

この問題への対応は、私たちの世代が抱える最大の課題であり、全世界が一丸となって取り組む責任があります。世界銀行グループは、地球温暖化を阻止するために自身の責任を果たさない限り、途上国の貧困を撲滅し、繁栄を共有するというミッションを成功させることは不可能であることを把握しています。世界銀行グループの新しい気候変動行動計画は、この認識に基づき、記録的な水準の気候変動対策向けファイナンスを途上国に提供することにより、GHG 排出量の削減、気候変動への適応策の強化、およびパリ協定の目標と整合した投融資の実現を目指しています。

私個人も、これからの世代のために地球を持続可能な状態に維持すべく、自分にできることに取り組んでいます。IFCの他の職員も、この地球環境の存続に関わる課題との戦いにおいて、自身が果たすべき役割を強く意識しています。私たちは、民間セクターは気候変動対策において非常に重要な役割を果たす必要があること、また金融システムに気候変動対策を導入する必要があることを認識しており、昨年はこの点に一層注力しました。

2021年度はグリーンボンド・プログラムの開始から10周年であり、次の10年間を始めるにあたり、プログラムの強化を目的とした見直しを行いました。オスロ国際気候環境研究センター (CICERO) による第三者評価 (セカンドパーティ・オピニオン) を改めて取得し、IFCのガバナンス手続きは優れているとの評価を得ました。

パンデミックが続く中でも、気候変動対策のための投融資に対するニーズは依然として高いままです。IFCの財務・シンジケーション部門は、グリーンボンド発行プログラムだけでなく、グリーンファイナンス市場に対する多面的な参加者としての立場に基づき、IFCの事業を強化する戦略を掲げています。私たちは、サステナブルファイナンス (持続可能な金融) への取り組みを開始したばかりの人々に対する技術支援や能力開発を実施し、サステナブルファイナンスに関する投資家教育を続けていくことは、大いに意義があると考えています。IFC-ミルケン研究所-ジョージ・ワシントン大学資本市場プログラムは、新興国で資本市場を開拓し、金融システムにサステナビリティを根付かせるのに必要なスキルを資本市場の参加者に提供する手段の1つです。

私たちはこれからの10年間、サステナブルファイナンスへの投資を大幅に拡大していかなければなりません。グリーンボンドは、多額の資金を調達するための重要な手段を提供することで、それを後押ししてくれるでしょう。IFCの財務・シンジケーション部門は、より環境に優しい未来への道に明かりをとりたいと考えています。



2021年度のIFC気候関連ビジネスの概要

気候変動に関する政府間パネル (IPCC) が最近発表した報告書¹は、気候変動は広範囲に及び、急速に進行しており、一段と深刻化しつつあると指摘しています。同報告書によれば、海面の上昇など既に生じている変動は、今後数百年から数千年にわたって元に戻らない可能性があります。気候を安定化させるためには、GHGを直ちに、かつ持続的に削減する必要があります。

気候変動はビジネスにとって大きなリスクであるとは言え、気候関連ビジネスは経済成長を促進し、雇用を創出し、低炭素型発展への移行を加速しうる大きな経済的機会です。IFCの調査では、気候関連ビジネスは23兆ドルの投融資の機会を生み出し、累積2億1,300万人の雇用を創出し、途上国のGHGをCO₂換算で40億トン削減できるという結果が出ています。こうした機会は、気候変動に対応する農業、都市のインフラ、再生可能エネルギーなど、幅広いセクターに存在します。

IFCの気候関連ビジネスの中心は、助言や投融資、ブレンド・ファイナンスを通じて、民間セクターの顧客がこれらの機会を活かせるよう支援することです。また新興市場国の政府や公的機関などのパートナーと積極的に連携し、気候変動対策向けファイナンスを促進しています。

IFCの戦略

IFCの気候関連ビジネスは、顧客の低炭素化への移行を支援することを目的としています。IFCの支援は、業種・セクターの専門家や、指標の専門家、金融のプロフェッショナル、ストラテジストを通じて、低炭素化への移行を目的とした投融資機会を特定することに役立てられます。またIFCは、カーボンプライシング(炭素への価格付け)などのツールや、投融資プロジェクトにおける物理的な気候リスクの評価を通じた気候リスクの分析支援も行っています。

IFCは、政策改革からプロジェクト開発に至るまで、幅広いアプローチを活用して様々な投資機会を生み出し、世界銀行グループの他の機関と密に協力しながら、民間投資家を引きつけられる規制・政策環境の創出に取り組んでいます。

IFCは、再生可能エネルギーやエネルギー効率化、持続可能な農業、グリーンビルディング、廃棄物管理、民間セクターによる気候変動への適応など、気候関連のプロジェクトへの投融資を行っています。

またIFCは、資本市場を開拓し、新興市場の気候変動対策を進める上で大いに必要とされている民間資金を動員するための取り組みを強化しています。

1 「気候変動2021: 自然科学的根拠 (Climate Change 2021: The Physical Science Basis)」

2 以下の数値は自己勘定のみの数値であり、動員した中核的資金は含まれません。

2021年度のIFCの気候関連ビジネスから期待されるインパクト

76億ドル 動員資金と自己勘定を合わせた投融資額

1,200万トン GHGの年間削減量

126 プロジェクト数

32% 2021年度のIFCの自己勘定による投融資総額の32% (40億ドル相当) と、動員したCore Mobilizationは中核的資金¹ 36億ドルを気候関連に割り当て

90セント IFCの投融資額1ドルにつき、他の投資家から90セントを動員

320億ドル 自己勘定による2005年度～2021年度の気候変動対策向けファイナンス320億ドルに加え、260億ドルを動員

¹ IFCが積極的に直接関与した結果、商業ベースで取り決められたIFC以外の主体からの顧客への投融資またはリスク共有型の資金を指す。

IFCの新しい気候関連ビジネス局長のご紹介



2021年の初め、アルズベータ・クラインの後任として、**ビベック・パサク**が新たにIFCの気候関連ビジネス局長に任命されました。資金調達・IRチームのミレニアル世代の職員とコーヒーを飲みながら、アジアにおける印象的な経歴と、今後のIFC気候関連ビジネスに関する考えを語りました。



(時計回りに) 資金調達・IRチームのセイマー・イブラヒム、ソフィー・ピーターズ、マーシャ・スナー・モンテイロ

セイマー：IFCに入社した経緯を教えてください。

ビベク：私は銀行業界の出身で、アジアに長年勤務していました。90年代前半には「アジアの虎」と呼ばれる国の1つで働いていました。ホットな市場だったので、誰もがその国に投資したがっていました。ですが、金融危機が起きると、ほとんどの銀行が大混乱の中でその市場からの撤退を決めました。その経験を踏まえ、私は顧客が本当に困っている時に現地に留まり、顧客を支援できる組織で働きたいと思うようになりました。それでIFCに入社したのです。23年たった今でも、IFCはしっかりと根を張って地域の支援を続けています。

セイマー：23年間で印象的だった出来事は何ですか

ビベク：私はクレジット部門での職務を通じて、IFCが多くの様々なセクターや国で実施している業務を幅広く見聞きし、IFCが現地にもたらした変化を目の当たりにしました。アジア地域の担当ディレクターだった時に同地域をよく知ることになったため、私にとってアジアは常に思い入れのある場所です。ですが、その経験は次のチャレンジに備えるきっかけにもなりました。中国や韓国、シンガポール、タイといった国々の金融・銀行業界が成長と繁栄を遂げるのを目にして、私はIFCが提供可能な、他の機関よりも優れた強みは何かを真剣に考えざるをえませんでした。私が出した答えはサステナビリティでした。そうした経緯で、私は気候関連ビジネス局という夢のような現職に就いたのです。

マーシャ：特に注目している業務の例を挙げてください。

ビベク：気候とサステナビリティはビジネスとして大

きな意味があります。グリーンビルディングを例に取りましょう。IFCはアジアにグリーンビルディングの大規模なポートフォリオを有しています。グリーンビルディングの初期費用は従来の不動産より高いものの、2~3年で費用を回収した後は、電気や水の消費量が比較的少なくて済むため収益性が格段に向上し、資産価値も相対的に高いことが特徴です。

ソフィー：今年開催される第26回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP26)についてはどのようなことを期待していますか

ビベク：より多くの国が現実的で達成可能な「自国が決定する貢献(NDC: Nationally Determined Contribution)」に真剣に取り組むことで、GHG排出量の削減と、気候変動の影響への適応が進展することを願っています。大きな目で見れば、NDCは私たちの環境を形作るものであり、私たちは顧客と協力して、顧客の気候変動対策目標の実現を支援することができます。

ソフィー：では、IFC気候関連ビジネス局が次に取り組むものは何でしょうか。

ビベク：私はこのチームが、IFCの業務において事業開発の原動力になることを願っています。顧客との対話を通じて、脱炭素化や気候関連ビジネスがもたらす新しいチャンスや新しい商品を考え抜く支援をすることで、それを実現できると考えています。気候はIFCのほとんどの業務の中核を占めるようになってきており、重要性は非常に高まっていくでしょう。ですから私は、このポジションに配属されたことを嬉しく思い、この挑戦を楽しみにしています。

パリ協定にスポットライトを当てる：IFCにとっての意味

世界銀行グループの理事会は先日、2021年～2025年の気候変動行動計画を承認しました。これは、資金の流れをパリ協定の目標に適合させる（以下「パリ協定への適合」）ための、グループとしての対応をまとめたものです。パリ協定は、世界の平均気温の上昇を産業革命前の水準と比較して2°Cよりも低く、かつ上昇を1.5°Cに抑える努力をすることを定めています。国によって事情が異なることを踏まえ、低炭素化とレジリエントな開発を実現するための道筋については、各国に裁量が与えられています。

パリ協定への適合評価は、ある活動がパリ協定の目標達成にプラスであるか、マイナスであるか、または中立であるかを判断するものです。IFCが顧客に提供する支援がパリ協定に適合するためには、低炭素化および気候変動に対してレジリエントな開発への道筋と一致しており、パリ協定の目的に沿っており、かつ顧客の国の「自国が決定する貢献(NDC)」、長期戦略、国が定めたその他の気候変動対策への取り組みと一致している必要があります。

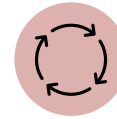
同様に他の国際開発金融機関(MDB)は、パリ協定の運用(operationalization)に具体的かつ継続的な方法で貢献する共同アプローチの開発に取り組んでいます。MDBのアプローチは、適合の主な領域を表す6つの「ブロック」に基づいており、そのうちブロック1(BB1)はパリ協定の気候変動緩和策に関する目標、ブロック2(BB2)は気候変動への適応とレジリエンスに関する目標との適合をそれぞれ表しています。

IFCは、融資の適合に関するブロックを導入しつつあり、顧客に対する融資と技術支援を、低炭素化および気候変動に対してレジリエントな開発への道筋に沿った形で実施しています。そのためIFCは、理事会が承認した実体経済セクターに関する業務の85%を2023年7月1日までに、100%を2025年7月1日までにパリ協定に適合させるという目標を設定しました。MDBの間で金融機関やファンドに関する適合手法が確立された後は、この融資事業についても同様のアプローチが取られる見込みです。

この目標を達成するため、IFCはすべてのプロジェクトを構想段階でパリ協定に適合させることを開始しました。IFCの気候関連ビジネス局は、IFCでパリ協定への適合を実現する上で、主導的な役割を果たしています。またIFCは今後も引き続き、IFCの進展に関する最新情報を投資家の皆さまに提供していきます。







顧客支援の実例：青い波に乗る

IFC初のブルーローンでは、年間500億本のペットボトルをリサイクルし、ごみ廃棄場や海洋に投棄されるはずであったプラスチックごみを転用する世界的なプラスチック企業を支援します。

素材の生産、使用、そしてごみ廃棄場や外国、川または海への投棄という従来の素材使用のサプライチェーンは、無駄が多く、環境にとって有害です。現在、全世界で発生する都市固形廃棄物(都市生活ごみ)は毎年20億トンにのぼり、そのうち3分の1は環境にとって安全な方法で処理されていません。2030年までに、この数字は26億トンまで増加すると予想されています。

とりわけ海洋汚染は危険な水準に達しつつあります。2050年には海中のプラスチックの重量は魚を上回るとされています。2019年には、海洋学者が、世界の海で最も深いとされるマリアナ海溝でビニール袋を発見しました。

途上国も先進国も、暮らしや経済を支える自然環境を保護し、GHG排出量を抑制するために、循環経済モデルに舵を切りつつあります。

ですが理由はそれだけではありません。循環経済はビジネスという面でも利に適っており、投融資を通じて利益を得る大きなチャンスをもたらしま

す。2030年までの循環経済の規模は4.5兆ドルにもものぼると推定されており、循環経済を導入した場合、2025年までに年間1兆ドルを節約できる可能性があります。

IFCは、経済循環を複数のセクターにまたがる重要なテーマと位置づけており、リソースの効率化、エネルギーと気候変動、およびサステナビリティに関する継続的な取り組みを土台として、新興市場におけるリソースフットプリント(resource footprint)を削減し、資源の循環ループを完成させ、環境に配慮した経済成長を推進する活動を行っています。IFCは100ヶ国以上で、プラスチック、建材、化学、繊維、その他の主要産業を含む幅広いバリューチェーンの中のターゲットを絞った顧客に働きかけています。

IFCは2020年11月、世界的なプラスチック用樹脂メーカーであるIndorama Venturesに対し、海洋プラスチック汚染への対応に特化した初のブルーローンを提供しました。この3億ドルの融資

は、同社が2025年までにタイ、インドネシア、フィリピン、インド、ブラジルで毎年500億本のペットボトルをリサイクルし、再生可能エネルギーおよびリソースの効率化プロジェクトに投資するのを支援するために用いられます。

Indorama Venturesは、2025年までに世界で最低75万トンのポリエチレン・テレフタレート(PET)をリサイクルすることを目標としています。この投融資の主な特徴は、廃棄物から価値を創造すること、つまりごみ廃棄場に投棄されるか、より価値の低い製品に加工されるはずだった使用済みペットボトルを加工することにあります。ボトルからボトルへの、より価値の高いリサイクルを推進することで、大きな価値を創出できる可能性があります。



顧客支援の実例：より環境に優しい未来を築く

IFCは、ルーマニア北東部の都市ヤシにおいて、環境に優しい6万平方メートルの情報技術（IT）複合施設の建設を支援しています。このビルは同国最大の複合オフィスビルの1つとなる見込みであり、環境に配慮したビジネス用インフラを構築し、海外からの投融資を誘致し、ルーマニア経済の多角化を支援する取り組みの一環でもあります。

2050年までに世界人口の68%が都市に居住するようになると予想される中、グリーンビルディングは気候変動と戦うための有望かつ効果的なソリューションとして浮上しつつあります。

それだけではありません。グリーンビルディングは低炭素型の経済成長を後押しし、再生可能エネルギーと建設セクターの両方で、2030年までに900万人以上の高スキル人材の雇用が生まれる可能性があります。またグリーンビルディングは今後10年間で最大の投融資機会の1つであり、2030年までに新興国の都市で24.7兆ドル、東欧および中央アジアで8,810億ドルの投融資機会が生じる見通しです。

IFCは2021年、ルーマニア各地で複合施設を開発している Iulius Holding の子会社に対し、エネ

ルギー効率に優れたオフィスビルの建設・運営資金として約7,200万ユーロを提供しました。ビルにはIT・通信企業が入居する予定です。これは、ルーマニアに拠点を置く同国資本の企業に対してIFCが提供する最初のグリーンローンです。

このプロジェクトは経済成長を推進するだけでなく、ヤシの通常のオフィスビルと比べ、エネルギー消費量を41%削減することができます。またCO₂換算でGHGを年間1,577トン削減することが可能です。この新しい複合ビルは、IFCの Excellence in Design for Great Efficiency (EDGE) 認証を取得する予定です。EDGE認証ビルは標準的なビルと比べてエネルギーと水の消費量が20%以上少なく、気候変動の緩和に貢献します。

この新しい複合ビルは、近代的で環境に配慮したオフィス空間を提供することにより、外国人投資家や外国企業をルーマニアに誘致し、引き留めることに役立つと予想されます。さらにこの投融資は、同国の遠隔地であるヤシの経済活動を活性化させ、雇用機会を拡大する効果があると見られます。新型コロナ禍での電子商取引やリモートワークの急激な拡大を背景に、デジタルサービスに対するニーズは高まりつつあり、またルーマニアはコンピュータのスキルを持つ人材やヘルプデスク・センター、デベロッパーが集まる世界的なホットスポットの1つであることから、現地の大学の卒業生に就職のチャンスを提供しています。



左：ルーマニアの首都ブカレスト近郊のシュテファネシュティイ・デ・ジョスにあるグリーンビルディング倉庫。
右：ルーマニアの首都ブカレストに建てられた Renault Dacia のグリーンオフィスと研究開発 (R&D) センター。





顧客支援の実例：成功の甘い香り

ブラジルの砂糖およびエタノール・セクターに対するIFCのグリーンローン第1号は、再生可能エネルギーの生産を推進し、環境に優しいバイオ燃料の生産を支援することで、気候変動の緩和に貢献します。

中所得国であるブラジルは、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって一段と深刻化した、景気見通しの大幅な悪化に悩んでいます。足元の景気の山や谷にもかかわらず、ブラジルは依然として世界で7番目のGHG 排出国であり、パリ協定に基づき、2030年までにGHG 排出量を43%削減することを目指しています。

ブラジルがこの目標を実現するためには、2030年までにエネルギー・ミックスに占める再生可能エネルギーの比率を45%に引き上げ、バイオマス発電を含め、エネルギー・ミックス全体に占める再生可能エネルギー源（水力を除く）の利用割合を2030年までに28%～33%に引き上げる必要があります。過去数年間、民間セクターが中心となって、持続可能なバイオ燃料の生産を拡大し、同国のエネルギー・ミックスに占める再生可能エネルギーの比率を引き上げました。

IFCは2021年に、São Martinhoにグリーンローンを提供しました。同社はブラジルで最も規模が大きく、最も効率的なサトウキビ加工会社の1つであり、サンパウロ州とゴイアス州に4ヶ所の製糖所を所有しているほか、再生可能バイオマス燃料による世界最大の発電会社の1つでもあります。IFCは自己勘定から5,500万ドルをコミットし（うちグリーンローンは3,000万ドル）、4,500万ドルをRabobankから動員し、合計で1億ドルを融資しました。

この投融資は、São Martinhoが気候変動に対応した有機肥料や現地に適した土壌処理法、およびリサイクルした栄養剤を使ってサトウキビ畑を再活性化することに役立てられます。また、ドローンや衛星画像を活用して天候や畑の状況をリアルタイムで正確にモニタリングし、実用的なデータを得ることも用いられます。

最も重要な点として、このローンは175,000 MWhの再生可能エネルギーを発電するための持続可能なバイオ燃料、バイオガスおよびバイオマスの生産費用にも当てられます。発電量の80%近くは送電網に送られます。これにより、CO₂換算で年間27,700トンのGHGを削減できる見通しです。

この融資はブラジルの砂糖およびエタノール・セクターに対する最初のグリーンローンであり、IFCが同国で提供する最初のグリーンローンでもあります。このプロジェクトは、気候変動対策を目的としたアグリビジネス・セクターへの投融資を推進し、革新的な金融商品をアピールすることで、市場を創出し、市場をよりサステナブルな方向へと導くことに役立つと思われます。

2021年度のIFCグリーンボンド・プログラムの概要

2021年6月30日現在、IFCの発行済みグリーンボンドの本数は178本、20通貨、105億ドル超となっています。発行済みグリーンボンドの残高は59億ドルです。2021年度には、個人向け債券市場の投資家需要に応えるため、米ドルおよびスウェーデンクローナ建てグリーンボンドを発行しました。

IFCグリーンボンド・プログラムは、2021年度に発足から10年目の転換点を迎えました。IFCは立ち止まってプログラムのこれまでを振り返るとともに、今後、気候変動関連の投融资に向けた資金調達の規模を拡大するには何をすべきかを検討しました。世界銀行グループは最近、パリ協定への適合について定めた気候変動行動計画を発表しました。これに従い、実体経済セクターに関する業務の100%を2025年までにパリ協定に適合させるというIFCの目標を実現するには、資金調達プログラムが重要な役割を果たすことになり

ます。その鍵を握るのは投融资部門および気候関連ビジネス局との組織内協力であり、この連携は常にグリーンボンド・プログラムに恩恵をもたらしてきました。それと同時に、投資家との継続的な対話からは、投資家にとって分析のための諸データが極めて重要であることが分かっています。これからは、質と流動性の高い債券を投資家に提供するとともに、サステナビリティに対するIFCの厳格な全体的アプローチや、通貨および期間の柔軟性に関する質の高いデータの提供に注力することがIFCのミッションとなります。

トム・クースターズ
債券市場業務局長

IFCグリーンボンドの発行実績

	2021年度	累積
発行額	1億6,580万ドル	105億ドル
発行本数	6	178
通貨	2	20

サステナビリティは今や機関投資家向け債券市場の主要テーマであり、2020年に始まったパンデミックや、気候関連の危機に対する意識の高まり、そしてこれらの問題を緩和するために早急に大規模な措置を講じる必要があるという認識が、グリーンボンドの成長を後押ししました。2021年度にIFCが起債したグリーンボンドには、2つの目的がありました。個人向け債券市場での起債の実例を作ることと、グリーンボンドがまだまだニッチな商品であるこの市場において、気候変動対策のための投融资に対する意識を高めることです。IFCはグリーンボンド・プログラムを強化するためにグリーンボンド枠組みを更新し、またCICERO Shades of GreenにIFCグリーンボンド・プログラムの外部レビューを依頼しました。2021年のセカンドパーティ・オピニオンは現在ウェブサイトのIRセクションで公開されています。グリーンボンド枠組みの総合評価ではCICERO Medium Green、ガバナンス・スコアは「優 (excellent)」という評価を得ています。

フローラ・チャオ
資金調達担当グローバルヘッド

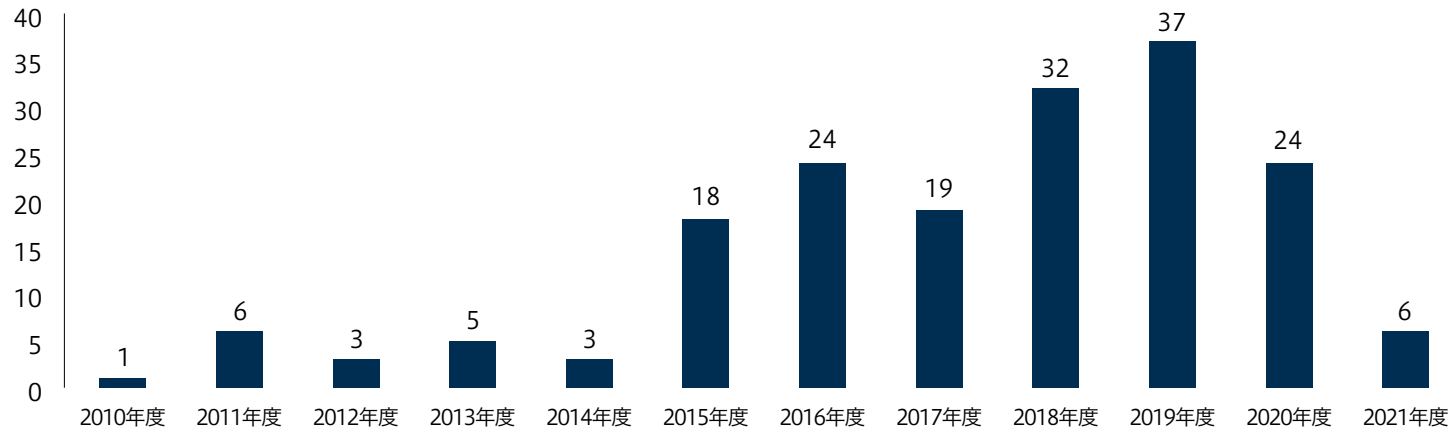
IFCは、グリーン、ソーシャル、サステナビリティ・リンク・ボンド原則執行委員会の委員に就任してから6年目となる2020年、同委員会の委員長に選任されるという栄誉を得ました。同委員会を支える国際資本市場協会 (ICMA) は、同原則を導入しているメンバーやオブザーバーのコミュニティ向けに、より幅広く戦略とガイダンスを提供しています。このコミュニティは、世界各地の約500の機関で構成されています。IFCのリーダーシップの下、2017年以降初となる同原則の改定版が公表されました。私たちは、サステナビリティボンド商品を育てる公正な土壌を整える上で、同原則が市場で果たしている役割を非常に誇らしく思います。統計によれば、発行されるテーマ債の90%以上が同原則に適合したものです。また同原則を補うものとして、環境効率プロジェクトおよび循環経済プロジェクトのインパクト・レポートの共通枠組みを記載した「循環経済・環境効率プロジェクトのインパクト・レポートの共通枠組み策定に向けた取り組み (Working Towards a Harmonised Framework for Impact Reporting for Circular Economy Projects and Eco-Efficiency Projects)」を公表しました。これは、同原則に基づくグリーン・プロジェクトの適格性に関する10の幅広いカテゴリーの1つであり、IFCの気候関連ビジネスの優先領域でもあります。

また同委員会は2020年に、「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック (Climate Transition Finance Handbook)」を交付しました。2050年までにGHG排出量を実質ゼロにし、世界の平均気温の上昇を産業革命前の水準と比較して2°Cよりも低く抑えるという世界的な目標を実現するには、排出量の多いセクターに低炭素化への参加を呼びかける必要があります。このハンドブックは、排出量の抑制が困難なこれらのセクターの発行体に対し、グリーンボンドを通じた資金調達への信頼できるアクセスを提供する橋渡しをすることで、パリ協定の目標実現という全体的な目的達成に必要な措置を講じることを支援します。

デニス・オダーロ IR 部門責任者

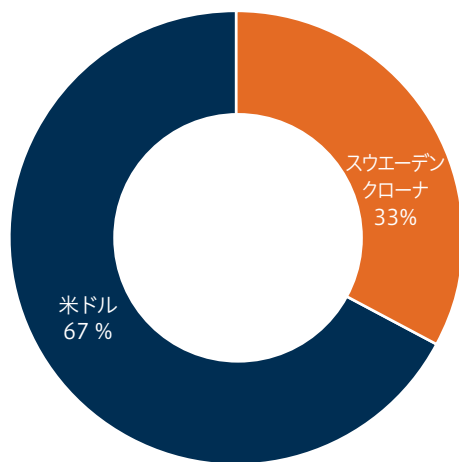


IFCグリーンボンドの年度別発行実績

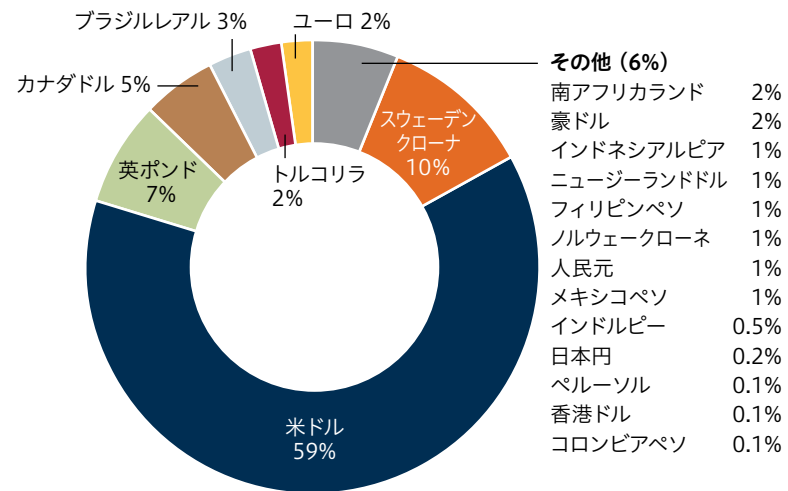


通貨別発行額内訳

2021年度



累計



インパクトを加速する：新興市場におけるグリーンボンド

Amundi Planet EGOファンドの最新状況

Amundi Planet EGO (AP EGO) ファンドが設立されてからの過去3年間で、AP EGOとIFCが管理するグリーンボンド・技術支援プログラム(GB-TAP)を通じ、33ヶ国で計56本、総額30億ドルのグリーンボンド、ソーシャルボンドおよびサステナビリティボンドが発行されました。

AP EGOはこれまで34本のグリーンボンド(うち29本が未償還、5本が満期償還済み)に投資しており、2021年6月末現在の投資総額(累積ベース)は8億3,800万ドルとなっています。ポートフォリオに含まれる29本のグリーンボンドの時価総額は7億9,500万ドルであり、運用資産額の52.5%を占めています。ポートフォリオは十分に分散されており、40ヶ国の82の発行体が起債した91の銘柄で構成されています。

GB-TAPは、新興国におけるグリーンボンドの発行を発行額と質の両面で後押しするため、様々な活動や取り組みを行っています。GB-TAPの主な活動のいくつかを以下に挙げます。

1. 研修: GB-TAPは設立以来、28ヶ国の51の金融機関から派遣された167人の参加者に研修を行ってきました。GB-TAPの銀行幹部向け研修を経て、グリーンボンド、ソーシャルボンドおよびサステナビリティボンド合計17本が発行され、その額面総額は11億700万ドルに上ります。AP EGOはこれらのグリーンボンドのうち5本に投資しています。

2. 開示の奨励: IFCは、新興国の債券発行体にESG情報の開示を促す取り組みを開始しました。IFCはデータ提供機関と協力してIFCのESGパフォーマンス指標で定義されたESG情報を収集するとともに、世界的な公共財として公開し、投資家や資産運用会社の利用に供しています。

3. レポートの質の改善: IFCは、新興市場におけるグリーンボンド関連情報(例：枠組み、外部レビュー・レポート、開示、インパクト・レポートなど)の質を高めるための自主的ガイダンスであるグリーンファイナンス・レビュー手順書(Green Finance Review Protocol、GFRP)を策定中です。GFRPは、発行体やセカンドオピニオンの提供機関にインパクト・レポートや外部レビュー・レポートを標準化するためのガイダンスを提供します。それによってレポートの質が高まり、投資家や市場参加者は、グリーンボンドに関するデータを比較検討することが可能になります。

4. 政策決定者および発行体への助言サービス: GB-TAPのグリーンファイナンス/グリーンボンド政策支援に基づき、IFCは11の新興国によるグリーンガイドラインおよびタクソノミ(分類体系)の策定を支援しました。GB-TAPは18の金融機関に技術的助言サービスを直接提供し、2020年12月の時点で、そのうち

EGOファンドの概要

Amundi Planet Emerging Green One (AP EGO) ファンドは新興市場を対象とする世界最大のグリーンボンド・ファンドであり、2018年3月に設立されました。IFCとAmundiは、新興市場のグリーンボンドに対する需要を喚起する目的でAP EGOを立ち上げました。同ファンドはIFCが2億5,600万ドルを投資して14億2,000万ドルで募集を締め切り、運用期間を通じて新興市場のグリーンボンドに20億ドルを割り当てる予定です。AP EGOファンドは、投資家に相対的な高利回りと信用リスクからの保護を提供することで、先進国の16の投資家グループを引きつけています。

10機関がそれぞれ初のグリーンボンド(総額13億2,900万ドル)を発行しています。

AP EGOとGB-TAPが実施している取り組みは、インパクトを加速させ、引き続き新興市場における大規模なグリーンボンド、ソーシャルボンドおよびサステナビリティボンド市場の創出と発展に貢献しています。

REGIOファンドの最新状況

IFCとHSBCグローバル・アセット・マネジメントは、企業や地方自治体による気候変動対策向けファイナンスへのアクセスを拡大し、新興国と途上国におけるグリーンボンド市場の発展を推進するため、2020年5月にReal Economy Green Investment Opportunity (REGIO) ファンドのクロージングを行い、民間セクターから5億3,800万ドルの資金を調達しました。

2021年6月現在、REGIOは資産の32%を「質の高い教育をみんなに」「安全な水とトイレを世界中に」「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「産業と技術革新の基盤をつくろう」「住み続けられるまちづくりを」「つくる責任 つかう責任」「気候変動に具体的な対策を」「陸の豊かさを守ろう」という8つの持続可能な開発目標 (SDGs) に関するグリーンボンドとサステナビリティボンドに投資しています。REGIOによる投資資金全額のグリーンボンドとサステナビリティボンドへの割り当ては、予定より早いペースで進んでいます。国別の内訳を見ると、インドとブラジルがそれぞれグリーンボンドとサステナビリティボンドの36%と26%を占め、最大となっています。そのほか、ポートフォリオにはペルー(10%)、チリ(7%)、インドネシア(6%)、アラブ首長国連邦(6%)、パラグアイ(4%)、トルコ(3%)、ポーランド(2%)が含まれています。

同ファンドに対し、アンカーインベスターであるIFCとHSBCはそれぞれ7,500万ドルを投資しています。そのほか、欧州の9つの年金基金、保険会社および開発金融機関 (DFI) も同ファンドに投資しています。IFCは、新興国のグリーンボンド市場における実体経済セクターの発行体を支援するための技術支援ファシリティを管理し、REGIOと協力しながら実施しています。



IFCのグリーンファイナンス市場との関わり

IFCは、途上国における顧客と密に協力し、世界中の発行体や投資家、引受会社、その他の資本市場参加者に働きかけることにより、持続可能な資本市場の発展を積極的に推進しています。

IFCのCLIMATE BIZポッドキャストを通じて実業界と気候問題を結びつける

世界各国の政府による気候変動対策への機運や、投資家のサステナビリティに対する関心が高まる中、Climate Bizは2018年からサステナビリティや気候関連ビジネスに関する情報をお届けしてきました。2021年には、IR部門の責任者であるエソヘ・デニス・オダーロがシャリ・フリードマン氏と共同でClimate Bizの司会に就任しました。番組では、気候やサステナビリティに関する最新の取り組みやビジネスチャンスを探るため、世界各地から幅広いセクターのゲストスピーカーをお招きしています。

Climate Biz 第3期の2021年7月の放送では、IFCのトレジャラーであるジョン・ガンドルフォとクライメート・ボンド・イニシアチブのショーン・キドニー CEO をゲストに招き、グリーンボンドに関する2部構成のシリーズ「進化の革命(The

金融市場で最も話題の商品であるグリーンボンドについて知っておくべき6つの基本的な事柄とは?この[ブログ記事](#)からご覧いただけます。

Revolution of an Evolution)」をお送りしました。

第2部ではH&MとVF Corpに焦点を当てながら、アパレル業界のグリーンボンドを取り上げました。Climate Bizは毎月新しいエピソードを[Appleポッドキャスト](#)、[Googleポッドキャスト](#)、[Spotify](#)、[Stitcher](#)およびIFCの[ウェブサイト](#)で公開しています。

IFCの2021年ESGディーラー調査で引受会社のESGに対する意欲を評価

IFCは2020年に、この種の調査としては世界初となるESGディーラー調査([ESG Dealer Survey](#))を開発し、発行体として初めて、債券引受会社がESGとサステナビリティにどの程度真剣に取り組んでいるかを評価しました。2021年版は初回調査をベースに、2020年に得られた教訓やディーラーからのフィードバックを盛り込んで内容を充実させました。本調査では、引受会社のESGに対するコミットメントと戦略、気候変動に深く関係する業種へのエクスポージャー、ESGリスクの軽減方針、テーマ型投資活動、カーボン・フットプリント、ESG報告の実務などについて質問しました。また2021年版では、サステナビリティボンド市場における最近の動向を考慮し、パリ協定の目標を実現するための行動計画を評価する設問を盛り込んでいます。

オダーロ委員長の下、グリーン、ソーシャル、サステナビリティボンド原則を改定

IFCが委員長を務めるグリーン、ソーシャル、サステナビリティ・リンク・ボンド原則執行委員会は、2021年6月に[グリーンボンド原則](#)および[ソーシャルボンド原則](#)の改定版を公表しました。同委員会のエソヘ・デニス・オダーロ委員長は次のように述べています。

「発行の増加に伴う市場の発展に枠組みを対応させるため、グリーンボンド原則およびソーシャルボンド原則の改定を行いました。足元のパンデミックと今も続いている気候危機により、サステナビリティへの対応ニーズは、資本市場のより中心的な部分を占めるようになってきました。発行体と投資家に対し、サステナビリティボンドを活用し、正しい低炭素経済への移行を実現するために大いに必要とされている資金にアクセスするためのベスト・プラクティスの指針を提供するという目標に変わりはありません。」

回答した40超のディーラーのうち、14%はESGに関して優れた実績をあげたものの、18%は同業他社を下回りました。この調査で得られたスコアはIFCの年次ディーラー評価に反映されるだけではありません。最も重要な点は、年間を通じてディーラーにESGに関する働きかけを行うためのツールとなることです。

「その先にあるもの」(イベント)

IFCは、IFCグリーンボンド・プログラムの10周年を記念して、2020年11月にEnvironmental Financeと共同で「その先にあるもの」と題する非公開イベントを開催しました。グリーンファイナンスの世界で活動する投資家や引受会社および発行体が集まり、これまでの成果を振り返るとともに、持続可能な開発のための2030アジェンダの実現に必要なイノベーションについて検討しました。イベントの様子は[こちらからご覧いただけます](#)。

イベント

IFCは、インフォメーション・マネジメント・ネットワークの「太陽光およびPACE投資に関するオンライン投資家会議(Virtual Investors Conference on Solar and PACE Investing)」に出席し、ブラウン・アドバイザー、ヌビーン、ニューマーケット・キャピタルおよびS&Pグローバルと共に、ESGの実務とグリーン投資の社会的公正に関するパネルディスカッションに参加しました。(2021年5月)

IFCのデニス・オダーロは、グリーン・クライメート・ファンドが主催した民間セクターのサステナビリティに関するオンライン講演の中で、最近、気候

受賞歴

CMDポータル・アワード2021: 最優秀IRチーム賞

IFCは、債券市場のベスト・プラクティスをリードする、優れた積極的なIR業務とIRチームが評価され、CMDポータルによって2021年の「最優秀IRチーム」に選ばれました。

IFCの2020年度のグリーンボンド・ インパクト・レポートが受賞

IFCの10年間にわたるインパクト・レポートの実績が評価され、Environmental Financeの債券アワード2021を受賞しました。審査員は、グリーンボンド・プログラムの10周年を記念するIFCの2020年度のグリーンボンド・イ

ンパクト・レポート特別号を「インパクト・レポートの金字塔」と称賛し、[インパクト・レポート・オブ・ザ・イヤー](#)を授与しました。

GLOBAL FINANCE MAGAZINE アワードを受賞

2021年8月、IFCはGlobal Finance Magazineから、[多国間機関によるサステナブルファイナンスの優れたリーダーシップ賞](#)を授与されました。この受賞は、サステナビリティを持続可能な開発目標(SDGs)およびESGリスクの管理と戦略的に適合させることをはじめ、IFCのインパクトを測定するためのセクター別の枠組みに至るまで、サステナビリティがIFCの中核であることが認められたことによるものです。

変動対策向けファイナンスへの関心が高まっていることに焦点を当てながら、気候変動対策に民間資金を活用することについて語りました。(2021年7月22日)

IFCは、Environmental Financeの「債券におけるESG(ESG in Fixed Income)」イベントにおいて、スペイン開発金融公庫、APGおよびTDとの討論に参加し、新型コロナウイルス感染症に関連した救援活動の資金調達において真価を発揮したソーシャルボンドについて議論しました。(2021年6月)

IFCのデニス・オダーロは、国際肥料工業協会の「グローバル・サステナビリティ会議(Global Sustainability Conference)」で、肥料会社およ

び農業バリューチェーン企業に対し、サステナビリティボンドの同業界への適用可能性について語りました。(2021年3月)

IFC資金調達チームのマーチン・ビルは、「マレキ・グローバル円卓会議(Maleki Global Roundtable)」において、サステナビリティ課題の実現を追求する上でアジアが果たす役割に関するセッションに参加し、「アジアを含む多くの投資家は、パンデミックをきっかけに、ESG問題を考慮することが重要だという確信が深まったと思う」と語りました。(2021年2月)

グリーンボンドの成り立ち、特徴、未来に関する[New Climate Capitalismポッドキャストをお聞きください](#)。

IFCグリーンボンド適格プロジェクトの地域別コミットメント (百万ドル)

By region

2014年度以降にIFCのグリーンボンド調達資金を充当したグリーンボンド適格プロジェクトは、2021年6月30日時点で236件に上ります。これらのプロジェクトへのコミットメント総額は**94億ドル**で、そのうち**77億ドル**が既に融資実行されました。

合計

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
コミットメント	936	1,133	961	1,555	2,205	885	695	1,040
融資実行額	242	956	754	1,356	1,914	1,135	642	666

多地域

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
コミットメント	0	0	0	24	0	0	0	0
融資実行額	0	0	0	17	7	0	0	0

ラテンアメリカ・カリブ海

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
コミットメント	618	422	90	534	406	252	330	101
融資実行額	156	551	210	449	358	208	171	146

欧州・中央アジア

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
コミットメント	178	370	284	320	834	121	119	109
融資実行額	66	228	265	312	833	183	255	49

中東・北アフリカ

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
コミットメント	55	143	119	203	265	45	191	100
融資実行額	9	34	123	208	124	178	66	79

南アジア

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
コミットメント	62	155	200	233	297	122	0	14
融資実行額	11	125	117	170	151	218	71	10

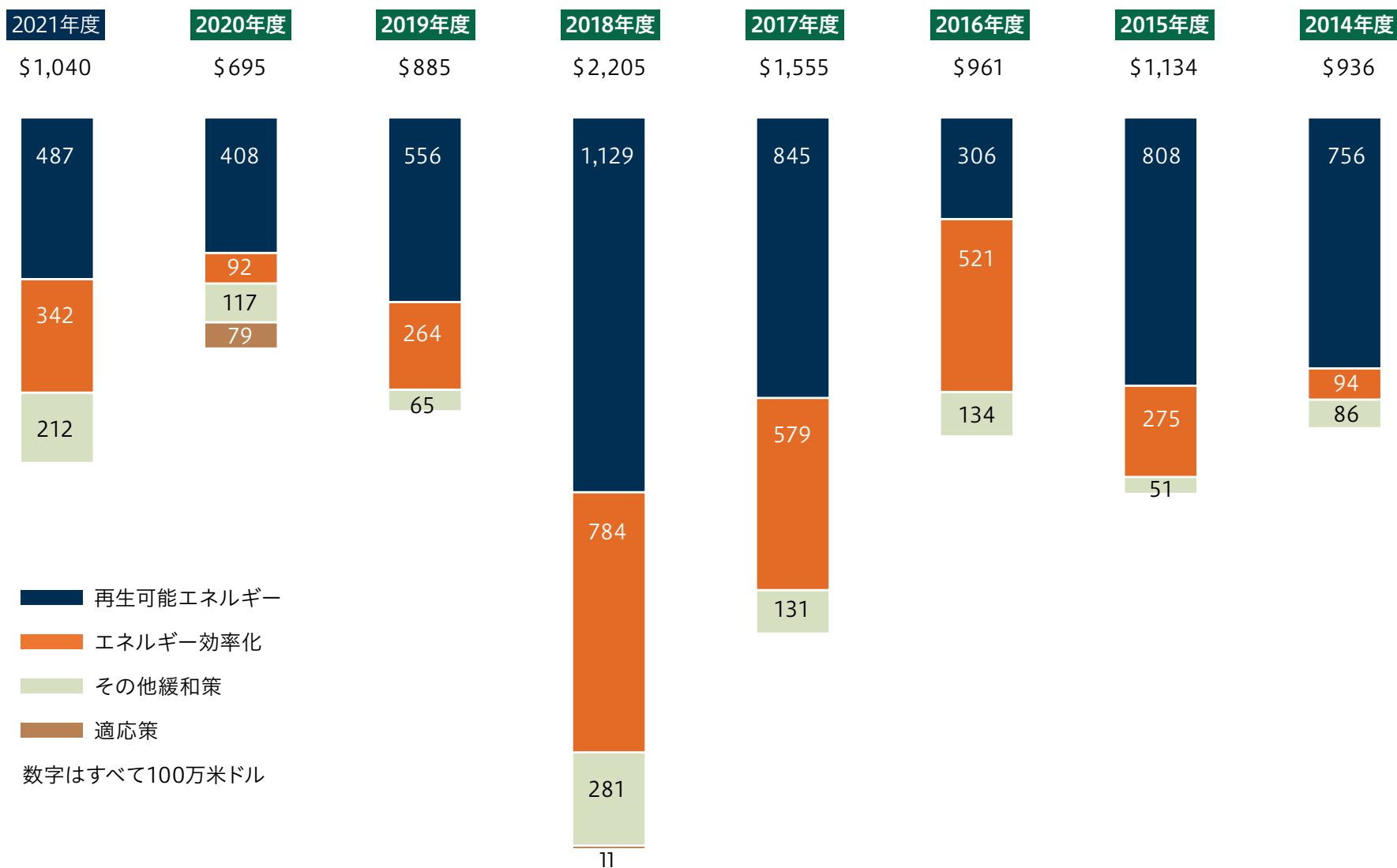
サブサハラ・アフリカ

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
コミットメント	23	43	39	36	63	20	17	350
融資実行額	0	19	21	22	14	42	32	183

東アジア・大洋州



年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
コミットメント	0	0	229	204	340	325	38	366
融資実行額	0	0	18	179	427	306	47	198

IFCグリーンボンド適格プロジェクトのセクター別コミットメント



2021年度にコミットしたグリーンボンド適格プロジェクト

グリーンボンド気候変動対策分野	プロジェクト名	プロジェクトID	国名	種類 EE (エネルギー効率化) RE (再生可能エネルギー) その他緩和策	プロジェクト概要	融資契約額 百万米ドル	年間発電量 MWh	年間エネルギー節減量 kWh	再生可能エネルギープラント (建設または改修) 設備容量 MW	年間温室効果ガス削減量 (推定) CO ₂ 排出量 (トン)	持続可能な開発目標
グリーンビルディング 	Iulius Phase 1	45237	ルーマニア	EE	IFCの融資は、ルーマニアのヤシにおける、近代的でエネルギー効率に優れた複合オフィスビル2棟の建設と運営費用に充てられる。この60,000平方メートルの新しい複合ビルは、IFCのExcellence in Design for Great Efficiency (EDGE)認証を取得する予定である。	31.86		2,656,916		882	<div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 2px;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #ff0066; color: white; padding: 2px;">10 人や国の不平等をなくそう</div> <div style="background-color: #006633; color: white; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div>
風力発電 	REE Wind Power 2	44653	ベトナム	RE	IFCの融資は、ベトナムにおける、それぞれ25.2 MWとa29 MWの2件の陸上風力発電プロジェクトの開発、資金調達、建設、運営、保守費用に充てられる。	19.00	135,256		54.2	123,489	<div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px;">7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</div> <div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 2px;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="background-color: #006633; color: white; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div>
GREEN BANKING 	Absa Green Loan	44557	南アフリカ	RE	IFCの融資は、同社の南アフリカにおけるグリーン・ポートフォリオを拡大して再生可能エネルギーおよびバイオマス・プロジェクトを支援することに充てられ、本件は国際的に認められたグリーンローン原則 (GLP) に基づくアフリカ初のグリーンローンとなる。このプロジェクトでは、グリーンファイナンス基準を強化してグリーンローンの透明性と情報開示を一段と改善し、気候変動対策向けファイナンスのメインストリーム化と、南アフリカだけでなくアフリカ地域の他の機関による追従を後押しする。	150.00				800,000	<div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 2px;">1 貧困をなくそう</div> <div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を実現しよう</div> <div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 2px;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #ff0066; color: white; padding: 2px;">10 人や国の不平等をなくそう</div> <div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px;">11 住み続けられるまちづくりを</div> <div style="background-color: #006633; color: white; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div>

グリーンボンド 気候変動 対策分野	プロジェ クト名	プロジェ クトID	国名	種類 EE (エネル ギー効率化) RE (再生可能 エネルギー) その他緩和策	プロジェクト概要	融資契約額 百万米ドル	年間発 電量 MWh	年間エネル ギー節減量 kWh	再生可能エネル ギープラント (建設または改 修) 設備容量 MW	年間温室効果 ガス削減量 (推 定) CO ₂ 排出量 (トン)	持続可能な開 発目標
グリーンビル ディング 	Logos Indo 2020	43835	インドネ シア	その他緩 和策	IFCの融資は、シンガポールのグ リーンマーク認証とIFCのグリー ンビルディング基準を適用して2 棟の多層倉庫施設を開発し、コス トの高い土地資源の利用を最適化 するとともに、インドネシアの倉庫 全体の水準と効率性を高めて同国 における倉庫セクターの競争力を 強めることに充てられる。	73.03		774,000		650	<div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div style="background-color: #4682b4; padding: 2px;">8 働きがいも 経済成長も</div> <div style="background-color: #90ee90; padding: 2px;">9 産業と技術革新の 基盤をつくらう</div> <div style="background-color: #3cb371; padding: 2px;">13 気候変動に 具体的な対策を</div>
グリーンバン キング 	Ned Green Loan	43809	南アフリカ	RE	IFCの融資は、Nedbankの南ア フリカにおけるグリーン・ポートフォ リオを拡大し、実例の提示と能力 開発を通じて気候変動対策向け ファイナンスへのアクセスを拡大す るとともに、Nedbankの気候リ スク評価の枠組みと開示の取り組 みを強化することにより、南アフ リカの銀行セクターの気候変動に 対するレジリエンスを高め、環境 と社会に対するインパクトを強め、 温室効果ガス (GHG) 排出量を削 減することに充てられる。さらに Nedbankは、気候リスクのメイ ンストリーム化の成功例として、気 候関連の金融リスクの枠組みが他 の銀行に採用され、市場全体に浸 透するための道筋を整えたとみら れる。	200.00				519,501	<div style="background-color: #ff69b4; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を 実現しよう</div> <div style="background-color: #4682b4; padding: 2px;">8 働きがいも 経済成長も</div> <div style="background-color: #90ee90; padding: 2px;">9 産業と技術革新の 基盤をつくらう</div> <div style="background-color: #ff69b4; padding: 2px;">10 人や国の不平等 をなくそう</div> <div style="background-color: #3cb371; padding: 2px;">13 気候変動に 具体的な対策を</div>

グリーンボンド 気候変動 対策分野	プロジェ クト名	プロジェ クトID	国名	種類 EE (エネル ギー効率化) RE (再生可能 エネルギー) その他緩和策	プロジェクト概要	融資契約額 百万米ドル	年間発 電量 MWh	年間エネル ギー節減量 kWh	再生可能エネル ギープラント (建設または改 修) 設備容量 MW	年間温室効果 ガス削減量 (推 定) CO ₂ 排出量 (トン)	持続可能な開 発目標
グリーンビル ディング 	Indospace COVID-19 Debt	43802	インド	EE	IFCの融資は、EDGE 認証を受け た約3～4ヶ所の倉庫団地ポート フォリオを建設および開発し、イン ドの消費と工業の主な中心地に約 500万平方フィートの倉庫インフラ を提供することに充てられる。こ のプロジェクトでは、同ポートフォ リオが事業計画を継続し、今後景 気が回復し、需要が高まった時に 備えることを可能にする。	14.36		14,592,691		12,538	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を 実現しよう</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 2px;">8 働きがいも 経済成長も</div> <div style="background-color: #ffa500; padding: 2px;">9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #ff69b4; padding: 2px;">10 人や国の不平等 をなくそう</div> <div style="background-color: #3cb371; padding: 2px;">13 気候変動に 具体的な対策を</div> <div style="background-color: #191970; color: white; padding: 2px;">17 パートナシップで 目標を達成しよう</div> </div>
グリーンバン キング 	Priorbank & RLBY	43585	ベラルーシ	EE	IFCの融資は、エネルギー効率に 優れた住宅の改修プロジェクトお よび/または環境配慮型住宅ロー ンおよび「グリーン」集合住宅の賃 借に充てられる。同行が環境に配 慮した金融商品の導入に成功すれ ば、市場全体で反響を呼び、他の 銀行が追随するための基準が定め られ、それにより気候変動対策向 けファイナンスへのアクセスを拡大 し、ベラルーシにおける環境配慮 型住宅金融の競争力を高めること が可能になるとみられる。	25.00				13,259	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="background-color: #ff0000; color: white; padding: 2px;">1 貧困を なくそう</div> <div style="background-color: #ffa500; padding: 2px;">7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 2px;">8 働きがいも 経済成長も</div> <div style="background-color: #ffa500; padding: 2px;">9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #ffa500; padding: 2px;">11 住み続けられる まちづくりを</div> <div style="background-color: #3cb371; padding: 2px;">13 気候変動に 具体的な対策を</div> </div>
グリーンビル ディングS 	AWC Green Loan	43415	タイ	EE	IFCの融資は、タイの主要観光地 にある既存ホテル4軒をグリーン 基準および EDGE 基準に適合する エネルギー効率に優れたホテルへ と改修することに加え、環境に配 慮したホテル2軒の建設に充てら れる。このプロジェクトでは、タイ 観光市場の長期的で「グリーンな 回復」を支援する。	124.19		18,846,000		6,991	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を 実現しよう</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 2px;">8 働きがいも 経済成長も</div> <div style="background-color: #ffa500; padding: 2px;">9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #ff69b4; padding: 2px;">10 人や国の不平等 をなくそう</div> <div style="background-color: #191970; color: white; padding: 2px;">17 パートナシップで 目標を達成しよう</div> </div>

グリーンボンド 気候変動 対策分野	プロジェ クト名	プロジェ クトID	国名	種類 EE (エネル ギー効率化) RE (再生可能 エネルギー) その他緩和策	プロジェクト概要	融資契約額 百万米ドル	年間発 電量 MWh	年間エネル ギー節減量 kWh	再生可能エネル ギープラント (建設または改 修) 設備容量 MW	年間温室効果 ガス削減量 (推 定) CO ₂ 排出量 (トン)	持続可能な開 発目標
バイオマス 	SM cogen	43319	ブラジル	RE	IFCの融資は、より効率の高いボイラーと発電機によって同社のバガス(サトウキビの搾りかす)を用いたコージェネレーション発電能力を拡大し、送電網に送る電力と、このプロジェクトで消費する電力をより多く生産することに充てられる。これはブラジルの砂糖およびエタノール・セクターにおける最初のグリーンローンであり、気候変動に対応する高度な農業技術を活用して同社のサトウキビ農園を刷新することにより、同社が持続可能な方法で資源を管理し、環境負荷を軽減できるよう支援する。	50.80	174,698			27,702	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="background-color: #ff0000; color: white; padding: 2px;">1 貧困をなくそう</div> <div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を実現しよう</div> <div style="background-color: #990000; color: white; padding: 2px;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #990099; color: white; padding: 2px;">10 人や国の不平等をなくそう</div> <div style="background-color: #009900; color: white; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div> <div style="background-color: #000099; color: white; padding: 2px;">17 パートナシップで目標を達成しよう</div> </div>
循環経済 	IVL Recycling	43300	タイ	EE/その他 緩和策	IFCの融資は、ポリエチレン・テレフタレート (PET) のリサイクル能力を拡大し、使用済みPET廃棄物を、飲料ボトルやその他の消費財に用いられるリサイクルPET (rPET) に転換することに充てられる。このプロジェクトでは、世界の食品・飲料セクターの顧客の需要に対応するとともに、同社が掲げている循環経済およびサステナビリティ目標を達成し、またとりわけ、ごみ廃棄場や自然環境に投棄されるはずだったプラスチックごみをリサイクルすることにより、海洋汚染や環境汚染の悪化に対処する予定である。また再生可能エネルギーおよびリソースの効率化に関する、環境に配慮した他のサステナビリティ・プロジェクトを支援することで、GHGの排出削減につなげる。	150.00		50,000,000		150,844	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を実現しよう</div> <div style="background-color: #990000; color: white; padding: 2px;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #990099; color: white; padding: 2px;">10 人や国の不平等をなくそう</div> <div style="background-color: #009900; color: white; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div> </div>

グリーンボンド 気候変動 対策分野	プロジェ クト名	プロジェ クトID	国名	種類 EE (エネル ギー効率化) RE (再生可能 エネルギー) その他緩和策	プロジェクト概要	融資契約額 百万米ドル	年間発 電量 MWh	年間エネル ギー節減量 kWh	再生可能エネル ギープラント (建設または改 修) 設備容量 MW	年間温室効果 ガス削減量 (推 定) CO ₂ 排出量 (トン)	持続可能な開 発目標
バイオマス 	COCAL_Bio	43265	ブラジル	RE	IFCの融資は、気候変動に対応する高度な農業技術の活用と農機具の更新による既存のサトウキビ畑2万7,000ヘクタールの再生支援のほか、バイオメタンを生産し、発電を行うためのバイオガス工場の建設に充てられる。	40.00	55,890			125,000	<div style="background-color: #f06292; padding: 2px;">1 貧困をなくそう</div> <div style="background-color: #ffcdd2; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を実現しよう</div> <div style="background-color: #e91e63; padding: 2px;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="background-color: #ff9800; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #4caf50; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div>
輸送 	Smart Zaporizhia	43181	ウクライナ	EE/その他緩和策	IFCの融資は、ウクライナにおける以下3件の運輸プロジェクトに充てられる。 1. Lviv E-Busesプロジェクトでは、最大50台のバッテリー式電気トロリーバスと、カタナリ式電送網および付随する電力供給インフラの修復に資金を充当する。 2. Kryvyi Rih Tramsプロジェクトでは、最大50台の路面電車と、路面電車の線路の修復およびレール研削機に資金を充当する。 3. Smart Zaporizhzhiaプロジェクトでは、「スマートシティ」プラットフォームに加え、地方自治体のデータセンター、最大8台の電気バス、最大20台のバッテリー式電気トロリーバス、電気輸送網用の機器、道路の再建・保守用機械、乗客用通信システムの更新、および公園の改修に資金を充当する。	34.94		28,291,514		2,021	<div style="background-color: #f06292; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を実現しよう</div> <div style="background-color: #e91e63; padding: 2px;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="background-color: #ff9800; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #e91e63; padding: 2px;">10 人や国の不平等をなくそう</div> <div style="background-color: #4caf50; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div>

グリーンボンド 気候変動 対策分野	プロジェ クト名	プロジェ クトID	国名	種類 EE (エネル ギー効率化) RE (再生可能 エネルギー) その他緩和策	プロジェクト概要	融資契約額 百万米ドル	年間発 電量 MWh	年間エネル ギー節減量 kWh	再生可能エネル ギープラント (建設または改 修) 設備容量 MW	年間温室効果 ガス削減量 (推 定) CO ₂ 排出量 (トン)	持続可能な開 発目標
グリーンバン キング 	DCM CIB Grn Bond	43061	エジプト	EE	IFCの融資は、エジプト最大の民間銀行であるCommercial International Bank (CIB) が発行する最初のグリーンボンドへの投資を通じて、グリーンビルディングの建設と、工業エネルギーの効率化プロジェクトに充てられる。このプロジェクトでは、グリーンビルディング向けファイナンスの資金調達を目的としたエジプト初のグリーンボンドの発行を通じて、サステナビリティを推進する。	100.00				12,854	<div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を実現しよう</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">10 人や国の不平等をなくそう</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div>
太陽光発電 	UZ Scaling Solar	42525	ウズベキ スタン	RE	IFCの融資は、ウズベキスタンのナボイにおける100 MWの太陽光発電所第1号に充てられ、クリーンエネルギーを生産し、エネルギー供給の安全保障を強化し、気候変動に対処する。この太陽光発電所は、老朽化が進むエネルギー集約的な火力発電所にとって代わり、ウズベキスタンの発電ミックスを低コストの再生可能エネルギー発電によって多様化することにより、レジリエンスを高める見通しである。	17.52	270,000		100	164,595	<div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">1 貧困をなくそう</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を実現しよう</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">10 人や国の不平等をなくそう</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div>
太陽光発電 	Perote II	41041	メキシコ	RE	IFCの融資は、メキシコのベラクルス州における118.9 MWの太陽光発電所の建設、機器の設置、運営および保守費用に充てられる。このプロジェクトは、現在、炭素集約的な火力発電が主流となっている同国のエネルギー・ミックスの多様化を通じて、電力市場のレジリエンスを高めることに貢献するとみられる。	10.00	263,000		118.9	127,172	<div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">1 貧困をなくそう</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">5 ジェンダー平等を実現しよう</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">10 人や国の不平等をなくそう</div>

付属資料A：職員の声と意見

IFCは、グリーンボンドの発行体、投資家または助言提供者として、グリーンファイナンス市場において様々な役割を担っています。IFCの職員は世界各地に配置され、世界の資本市場および途上国におけるIFCの民間セクターの顧客と密に協力しながら業務を行っています。職員たちは、サステナブルファイナンス市場の成長を推進および奨励し、インパクトをもたらすプロジェクトに資金を振り向けるという共通の目標に向けて、共に取り組んでいます。

グリーンファイナンス市場のトレンドや動向に関する、様々な地域や機関の職員の考えをご紹介します。

“アジア太平洋地域ではサステナブルファイナンスが勢いを増し、メインストリーム化しつつあります。カーボン・フットプリントの認識は従来の運輸、工業および建築セクターに留まらず、例えば農業やセメント分野でも考慮されています。

中国、日本、シンガポールを含む複数の国の政府はカーボンニュートラルを約束しており、それを踏まえて規制当局、業界および市場が更なる取り組みを実施することになります。私はワシントンDCのIFC本部からシンガポールに異動して以来、サステナビリティボンドや、資金提供の対象プロジェクト、インパクト・レポート、そしてESGの標準化に関するアジア太平洋地域の投資家との対話を重ねてきました。”

マーチン・ビル (アジア太平洋資金調達責任者)

“日本の資本市場は、IFCのテーマ債をその黎明期から支え、最も急速に投資を拡大している市場の一つです。2013年以降、日本の投資家はIFCのグリーンボンド・プログラムを非常に強く支持してきました。また、気候変動に関する日本社会の意識の高まりを反映し、ESG(環境・社会・ガバナンス)という基準を投資の意思決定に取り入れるようになってきています。2020年度には、世界最大級の機関投資家である年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)との取引後、IFCのグリーンボンド累積発行額が100億ドルの大台を突破しました。日本の資本市場、そこでは今後ともグリーンファイナンスが大いに栄え、そして、そこから、IFCの手により、民間資金が世界各地の気候変動対策プロジェクトへと滾々と流れ込んでいく源なのです。”

黒澤 利武 (東京事務所所長)

“サステナブルファイナンスはファイナンスの未来です。グリーンボンドは、幅広い革新的な金融商品を後押ししてきました。気候変動が資本市場の決定的要因になりつつある中、サステナビリティに焦点を当てたファイナンスは、気候変動に対してレジリエントな未来の実現のために資金を割り当てる上で、ますます重要な役割を果たすようになってきています。

パリ協定の脱炭素化目標は企業に明確かつ直接的な影響を及ぼしており、ますます多くの顧客から、脱炭素化への適切な工程作りを支援してほしいという要望が寄せられています。過去10年間でグリーンファイナンスにとって決定的な10年であったように、次の10年間は低炭素の未来への信頼できる移行を実現するための資金を調達する上で決定的な10年となるでしょう。”

ベリット・リンドホルト・ラウリドセン
(気候変動対策向けファイナンス シニアスペシャリスト)

“私は新型コロナウイルス感染症のパンデミックの最中に IFC の金融機関グループのアップストリーム事業責任者としてシンガポールに異動して以来、アジアの機関投資家が ESG 投資を優先し、拡大するとともに、より良い復興のための解決策としてサステナブルファイナンスを検討するのを見てきました。グリーンボンド原則およびソーシャルボンド原則に基づく、気候変動やエネルギー転換をテーマとする金融商品の開発にますます注目が集まっています。私たちは IFC の意欲的な新しいアップストリーム事業戦略の一環として、発行体および投資家の双方と協力しながら、アジア太平洋全域でブルーファイナンス、グリーンファイナンスおよびトランジション・ファイナンス商品の新市場を開拓し、投資機会を創出しています。”

クリスティナ・オンゴマ (アジア太平洋プリンシパル・インベストメント・オフィサー兼金融機関グループ アップストリーム事業責任者)

“欧州は債券発行と規制の両面で、引き続き世界の ESG 市場をリードしています。また欧州は気候変動対策の中心地でもあります。IPCC の第 6 次評価報告書が指摘しているように、今後 10 年間は壊滅的な気候崩壊を回避するための最後のチャンスになる可能性があります。近々開催される COP26 は、すべてのセクターに早急な協調的行動を促し、市場に対して明確な方向性を提示するのではないかと大いに期待されています。異常気象、気候変動に起因する社会の不安定化、そして市民社会からの圧力の高まりを背景に、政策決定者や企業は「有言実行」を求められています。COP26 では、公的部門と民間セクターの参加者がもっと多くのサステナビリティ戦略を立ち上げることを願っています。”

エレナ・パノマレンコ (欧州資金調達責任者)

“今や非常に多くの金融機関が GHG 排出量の実質ゼロ化を約束し、グリーン・ポートフォリオを拡大しており、2016 年にラテンアメリカの民間銀行が初めてグリーンボンドを発行した時のことが遠い昔のようです。このセクターは目覚ましい進展を遂げたものの、気候変動に関する投資の不足額と投資機会は極めて大きいと言えます。同地域は世界のグリーンボンド市場の 2% を占めるに過ぎず、同地域の銀行は今なお、この割合を引き上げるための意欲的な長期目標の作成という課題を抱えています。私のチームは引き続き、ポートフォリオと市場の機会を特定し、長期的なサステナブル戦略を設計するための助言サービスを提供するグリーンバンキング・アカデミーを通じて、金融機関が知識を深められるよう協力していきます。”

マルセラ・ボンセ (シニア・インダストリー・スペシャリスト—ラテンアメリカ金融機関グループ)

“2007 年に最初のグリーンボンドが発行されて以来、グリーンファイナンス市場は飛躍的な成長を遂げ、気候に関する大きなプラスの成果をもたらただけでなく、資本市場が開発効果を推進できる可能性を浮き彫りにしました。私は、インパクトや透明性、開示といったグリーンファイナンスの投資構造の先駆的なイノベーションが、サステナビリティを目的とするより多くの投資商品に適用されることを願っています。SDGs の達成期限まで 10 年も残されておらず、気候関連の危機が高まっているため、このことは極めて重要です。”

市場が今後も成長を続けるかどうかは、ESG 問題を盛り込んだ新興国への投資戦略を策定するための、ESG に関する信頼できるデータにアクセスできるかどうかにかかっています。IFC が先頭に立ってこのようなデータの不足に対処し、最近、新興国の資本市場におけるサステナビリティ報告の強化を目的としたサステナビリティ・データの枠組みである資本市場向け ESG パフォーマンス指標を立ち上げたことを嬉しく思います。”

アティヤ・カーマリー (プリンシパル・エンバイロメント・スペシャリスト)



付属資料B：IFCグリーンボンド・プログラムのプロセス

IFCのグリーンボンド・プログラムはグリーンボンド原則（GBP）を遵守し、ベスト・マーケット・プラクティスに即して運用されています。

ステージ1：調達資金の使途

IFCのグリーンボンド調達資金は、気候関連プロジェクト（適格プロジェクト）への融資業務に関連するサブポートフォリオに割り当てられます。グリーンボンド調達資金は、プロジェクトの融資部分のみに充当されます（エクイティ投資と保証は対象外）。

適格プロジェクトは、IFCの気候関連融資ポートフォリオの中から選定されます。このポートフォリオは、IFCの「気候関連活動のための定義と基準」に適合したプロジェクトで構成されています。少数ですが、個別案件に紐づく資金調達を行う場合、IFCグリーンボンドからの調達資金が、IFCにより直接特定の適格プロジェクトへ転貸される場合があります。

グリーンボンド適格プロジェクトには以下のような分野が含まれます。

・エネルギー効率化（EE）

製品やサービスの生産単位当たりのエネルギー消費削減に役立つ設備、システム、サービスへの投資。これには、廃熱回収システムの設置、コージェネレーション、建物用断熱材、送配電エネルギー損失の削減等が含まれます。

・再生可能エネルギー（RE）

再生可能資源からのエネルギーの生産利用を可能にする設備やシステム、サービスへの投資。これには、風力、水力、太陽光、地熱等が含まれます。

・資源の効率化

製造資源（エネルギー、水、原料）から販売可能生産物への変換効率を高めるよう、産業プロセスやサービス、製品の改良に向けた投資。これには、資源調達先における影響緩和等が含まれます。

・環境負荷を低減する生産技術

エネルギーの効率化や再生可能エネルギー、環境負荷を低減する部品生産への投資。これには、太陽光発電所の建設、タービンの製造、建物断熱材の開発等が含まれます。

・金融仲介機関

金融仲介機関への投融資。ただし、IFCからの投融資が、IFCのグリーンボンド適格要件を満たした気候変動対策プロジェクトにオン・レンディング（転貸）されることを必要条件としています。

・持続可能な林業

ステージ2：評価と選定

グリーンボンド適格要件に適合することはもちろん、IFCの融資を受けるプロジェクトはすべてIFCの環境・社会問題のためのパフォーマンス基準およびIFCのコーポレートガバナンスに関する

枠組みに準拠し、いずれのプロジェクトも厳格なデューデリジェンスの手続きを経ています。オスロ国際気候環境研究センター（CICERO）がIFCのプロジェクト評価および選定要件のレビューを行っています。同センターのセカンドオピニオンの内容はIFCのウェブサイトでご覧いただけます。

ステージ3：調達資金の管理

IFCのグリーンボンド調達資金はすべて指定されたグリーン現金勘定に移され、適格プロジェクトへの融資実行までの間、流動性に関するIFCの保守的な方針に則って運用されます（資金が直接特定の適格プロジェクトへ転貸される場合を除く）。グリーン現金勘定では発行済みグリーンボンドの残高と適格プロジェクトの融資残高の差額を把握しています。適格プロジェクトへの融資が実行されるか、グリーンボンドが償還を迎えるとグリーン現金勘定の残高が減少し、新たなグリーンボンドが発行されるか、適格プロジェクトへの融資が返済されると増加します。適格プロジェクトへの融資実行依頼は、IFCの既定方針と手続きに則って処理され、プロジェクトの進捗状況に従って一定の時間をかけて行われます。

グリーンボンドが支援するプロジェクトの気候関連の要素が、より大きな投資の一部であるケースもあります。こうした場合は、グリーンボンド・ポートフォリオはプロジェクトの適格部分のみに融資されます。

投資対象会社には、プロジェクト活動と全投資期

間を通したパフォーマンスに関する定期報告が義務付けられ、こうした報告を元にプロジェクトのモニタリングが行われています。

ステージ4: 報告

IFCグリーンボンド・インパクト・レポートは、グリーンボンド原則の報告枠組みである、「グリーンボンド・インパクト・レポートの共通枠組み策定に向けた取り組み (“Working Towards a Harmonized Framework for Green Bond Impact Reporting”）」に従って作成されています。この枠組みは、透明性を高めることでグリーンボンド市場のインテグリティを確保することを目的として策定されているものです。

本レポートでは、グリーンボンド調達資金が充当されたプロジェクトのリストを掲載しており、さらに各プロジェクトの概要、気候関連融資額、期待される環境へのインパクトについても、それぞれの守秘義務を勘案したうえで掲載しています。なお、本レポートの対象となるのは、グリーンボンドの適格プロジェクトのみです。

IFCの気候関連ビジネスの詳細については、以下のサイトをご参照ください。

www.ifc.org/climatebusiness.



付属資料C：IFCインパクト・レポートの方針

IFC情報アクセスに関する方針

情報アクセスに関する方針はIFCの持続可能性枠組みの礎であり、透明性を高めることに向けたIFCのコミットメントを明確に表現したものです。

私たちは投融资および顧客、パートナー、ステークホルダーへの助言活動に関する情報を正確かつ適時に提供するよう努めています。また、プロジェクト、環境・社会への影響、そして期待される開発効果に関する情報については、理事会での検討に先行して公開するよう努めています。

このコミットメントはグリーンボンド・プログラム対象のプロジェクトにも適用されます。

インパクト指標

本レポートは、IFCを含む国際開発金融機関の作業部会が策定したインパクト・レポートの共通枠組み (Harmonized Framework for Impact Reporting) に従い、グリーンボンド・プログラムのプロジェクトに関して、以下の4つのコア指標に基づいて報告しています。

1. 年間エネルギー節減量
2. 年間温室効果ガス (GHG) 排出削減量・排出回避量
3. 再生可能エネルギー年間発電量
4. 再生可能エネルギープラント (建設または修復) 設備容量

インパクト指標の解釈

インパクト指標はプロジェクト・レベルで追跡され、IFCの拠出額に応じた按分はされていません。金融仲介機関 (FI) への投資は、IFCが直接融資できない中小企業等、より小規模な顧客による気候変動対策プロジェクトへの融資を可能にするものです。IFCはパートナーの金融仲介機関が自らの投資ポートフォリオの気候変動に対するインパクトを評価することの重要性を鑑み、アプリケーション「金融機関のための投資に関する気候変動影響評価」を開発しました。これにより、顧客である金融仲介機関による各気候関連の投資結果のモニタリングが可能となりました。

IFCの温室効果ガス排出量の算定方法と気候関連の定義と基準については、[IFCの気候関連ビジネスのサイト](#)をご覧ください。

レポートはいくつかのコア指標の定量化を可能にしたものですが、報告されたデータには限界があると認識していただくことが重要です。

結果を適切に解釈するための主な留意点は以下の通りです。

- **効果の範囲**：レポートはプロジェクト評価時点における事前評価であり、主にプロジェクトの直接

的な効果に基づいています。

- **不確実性**：インパクト指標の予測における重要な留意点は、指標が多くの仮定に基づくことが多いという点です。技術者は、現時点で得られる情報に合理的に基づいた堅実かつ保守的な仮定を目指しますが、プロジェクトの実際の環境へのインパクトは当初の見通しから外れる可能性があります。一般に、行動変化やベースライン (基準値) 条件の変化は、見通しからの逸脱を生じる要因になり得ます。
- **比較可能性**：プロジェクトやセクター、またはポートフォリオ全体を比較する際には、基準値 (および基準年数) と算出方法に大きな違いがある可能性があるため、注意が必要です。さらに、各国で費用構造も異なるため、費用対効果 (適格プロジェクトへの投資額単位当たりの効果) の算出をする際に、経済の規模に限界のある比較的小さな国に不利に働き、各国に即した状況を考慮しない結果になる可能性があります。
- **不作為**：プロジェクトはインパクト・アセスメント表に掲げた指標より幅広い指標で影響がある可能性があり、重要な開発効果が他にあるかもしれません。

さらに、採用されたコア指標が適用できないか、データがないプロジェクトもあります。

IFCは時間とともにレポートのための算出方法の一貫性と利用可能性を改善する努力をしていますが、気候変動対策プロジェクトは関連するセクターとサブセクターが非常に多岐に及んでいるため、報告のための算出方法の共通化は容易ではありません。



付属資料D：IFCグリーンボンド・コミットメントおよび融資実行額の調整

2018年度および2019年度において、私たちは2014年度～2017年度グリーンボンド適格プロジェクトのポートフォリオの内部レビューを実施し、コミットメントと融資実行額の調整を行いました。以下に、過年度(2015、2016および2017年度)においてIFCが報告したコミットメントと融資実行額に関する訂正を記載しました。なお、本レポートの25～26ページに掲載されたIFCグリーンボンド地域別コミットメントおよびIFCグリーンボンドセクター別コミットメントの内訳額は、これらの訂正を反映しております。

コミットメントに対する訂正

2017年度

- 再生可能エネルギーセクターおよびエネルギー効率化セクターに対するコミットメント：それぞれ8億4,500万ドル、5億7,900万ドルに訂正されました。2017年度のグリーンボンド・インパクト・レポートではセクター名が入れ替わっていました。
- 多地域に対するコミットメント：2,400万ドルに訂正されました。
- 中東・北アフリカ地域および南アジア地域に対するコミットメント：パキスタンの地域区分を南アジアに変更したことに伴い、それぞれ1億3,700万ドルと2億9,900万ドルに訂正されました。パキスタンの地域区分は2021年度に再び中東・北アフリカ地域に変更されました。

2016年度

- ラテンアメリカ・カリブ海地域に対するコミットメント、再生可能エネルギーセクターに対するコミットメント、コミットメント合計額：それぞれ9,000万ドル、3億600万ドル、9億6,100万ドルに訂正されました。2017年度のグリーンボンド・インパクト・レポートには、2016年度のグリーンボンド・インパクト・レポートの適格ポートフォリオに含まれておらず、その後も適格プロジェクトと見なされたことのない候補プロジェクトが含まれていました。

2015年度

- 欧州・中央アジア地域に対するコミットメント、エネルギー効率化セクターに対するコミットメント、コミットメント合計額：プロジェクト番号35012のコミットメント減額に伴い、それぞれ3億8,200万ドルから3億7,000万ドル、2億9,600万ドルから2億8,400万ドル、11億5,500万ドルから11億4,300万ドルへと修正されました。
- 多地域に対するコミットメント、エネルギー効率化セクターに対するコミットメント、コミットメント合計額：プロジェクトの種類が融資からエクイティ投資に変更されたことに伴い、それぞれ0ドル、2億7,500万ドル、11億3,300万ドルに訂正されました。
- 中東・北アフリカ地域および南アジア地域に対するコミットメント：パキスタンの区分を南アジ

アに変更したことに伴い、それぞれ5,900万ドルと2億3,900万ドルに訂正されました。パキスタンの地域区分は2021年度に再び中東・北アフリカ地域に変更されました。

融資実行額に対する訂正

2018年度

- 中東・北アフリカ地域および南アジア地域に対する融資実行額：パキスタンの地域区分を南アジアに変更したことに伴い、それぞれ7,500万ドル、2億ドルに訂正されました。パキスタンの地域区分は2021年度に再び中東・北アフリカ地域に変更されました。

2017年度

- 融資実行額合計：13億5,600万ドルに訂正しました。2017年度のグリーンボンド・インパクト・レポートには、同年に新たにコミットされたプロジェクトへの融資実行額のみが記載されておりました(8億9,900万ドル)。2017年度のグリーンボンド適格プロジェクトに対する融資実行額合計は13億5,600万ドルでした。
- 中東・北アフリカ地域および南アジア地域に対する融資実行額：パキスタンの地域区分を南アジアに変更したことに伴い、それぞれ1億8,400万ドル、1億9,400万ドルに訂正されました。パキスタンの地域区分は2021年度に再び中東・北アフリカ地域に変更されました。

2016年度

- ・ 多地域に対する融資実行額：0に訂正しました。2017年度のグリーンボンド・インパクト・レポートで報告された2016年度の融資実行額1,800万ドルは、同年の東アジア・大洋州地域に対する融資実行額でした。
- ・ 中東・北アフリカ地域および南アジア地域に対する融資実行額：パキスタンの地域区分を南アジアに変更したことに伴い、それぞれ8,600万ドル、1億5,400万ドルに訂正されました。パキスタンの地域区分は2021年度に再び中東・北アフリカ地域に変更されました。

作成者

本レポートはIFCのFundingおよびInvestor Relationsチームが作成しました。

作成者はEsohe Denise Odaro、Sophie PeetersおよびMarsha Sneh Monteiro、情報提供者はClimate Business担当部署のBerit Lindholdt-Lauridsen、Olga Khlebinskaya、Francisco Avendano、Maria Antonia ParaanおよびPatricia Nunez Benitezです。

データレビューおよび編集レビュー協力者はBing Bing Yuliawati、Asra Quratul Ain Nomani、Alan LukomaおよびEmma-Kate Symonsです。

免責事項

本レポートは情報提供のみを目的として作成されています。IFCは、本レポートに含まれる情報、意見、結論の完全性や信頼性に関して、いかなる保証および表明も行うものではありません。掲載されている報告や情報、またはこのレポートの中で言及されているウェブサイトから得られる情報は、過去のもので、その時点での情報を述べているに過ぎません。IFCはこれらの情報を更新する義務を一切負いません。

本レポートは、IFCが発行するいかなる債券についても評価基準を提供するものではありません。また、いかなるIFCの債券についても予約または購入を勧誘、推奨、提供するものではありません。いかなる状況においても、IFCまたはその関係機関は、本レポートの情報の使用に起因するいかなる損失、損害、負債、費用に対しても責任を負いません。これには直接的損害、間接的損害、特別損害、派生的損害を含み、それらに限らず、たとえそのような損害の可能性についてIFCが報告を受けていた場合を含め、いかなる状況においても、IFCおよびIFCの関係機関は責任を負いません。

IFCに関するより詳しい情報は、以下のIFCのウェブサイトより、最新版「インフォメーション・ステートメント」、財務諸表、その他関連情報を参照してください。

www.ifc.org/investors



Creating Markets, Creating Opportunities